

『共に北海道の未来を創る』－第9期北海道総合開発計画－

計画の目標

計画期間 2024年度からおおむね10年間

近年の社会環境の変化、北海道のポテンシャル等を踏まえ2050年の長期を見据えて、北海道開発を効果的に進めています。

2050年の北海道の将来像

- ▶食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- ▶デジタルの実装により、北海道内の地方における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を惹きつける多様な暮らし方が実現している。

北海道が我が国に貢献するための土台を固め、北海道の価値を更に高めるため、以下の2つの目標を設定します。

- 目標1
「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道～
- 目標2
「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造」
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～

計画の進め方

○ リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成

生産空間は、人々が分散して生活する地域構造となっていますが、食料生産は実際にその場にすみ続ける、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立しており、リアルを支えるインフラが不可欠です。また、生活環境を維持するためには、時間と空間の制約を克服できるデジタル技術の活用が有効です。

○ 計画の実効性を高めるための方策

- 官民の垣根を越えた「共創」
- 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
- フロンティア精神の再発揮
- 戦略的・計画的な社会資本整備

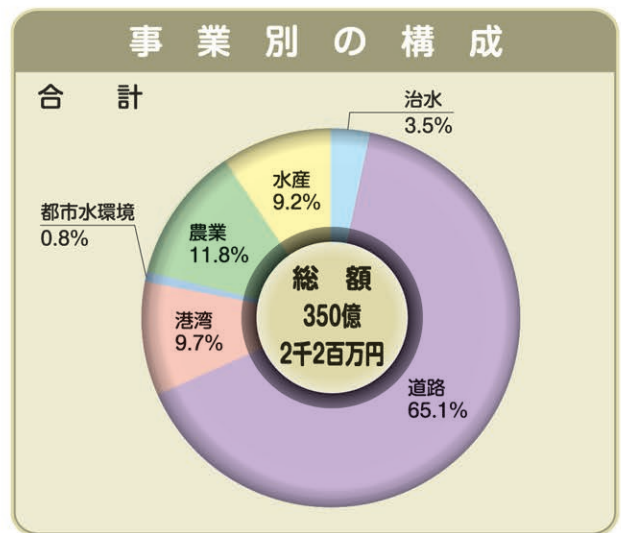
共創の取組イメージ



令和6年度釧路開発建設部事業費

事業	項目	令和6年度予算額
治水		12億3千1百万円
道路		227億8千7百万円
港湾整備		33億8千1百万円
都市水環境整備		2億7千1百万円
農業農村整備		41億3千2百万円
水産基盤整備		32億2千1百万円
合計		350億2千2百万円

注)1.農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費は含まれていない。
2.四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。



四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

管内の概況

釧路・根室管内は、北海道の最東端に位置し、南部は太平洋、北部は阿寒・摩周・知床連峰、西部は白糠丘陵、東部はオホーツク海に囲まれ、世界自然遺産でもある知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園、厚岸霧多布昆布森国定公園及び野付風連道立自然公園を擁するなど、雄大で魅力ある自然に恵まれた地域です。

春から夏にかけて海霧が発生し、湿润冷涼な日が多く、秋から冬にかけては、大陸性高気圧の影響により晴天の日が続きます。酪農や漁業を中心とした農林水産業が盛んな地域で、近年は広域連携による地域資源を活かした滞在型の観光地づくりやアドベンチャーツーリズムへの取組が進められています。また、我が国固有の領土である北方領土に隣接した地域です。

グラフで見る管内の産業

